

こうして、わたしたちはローマに着いた。

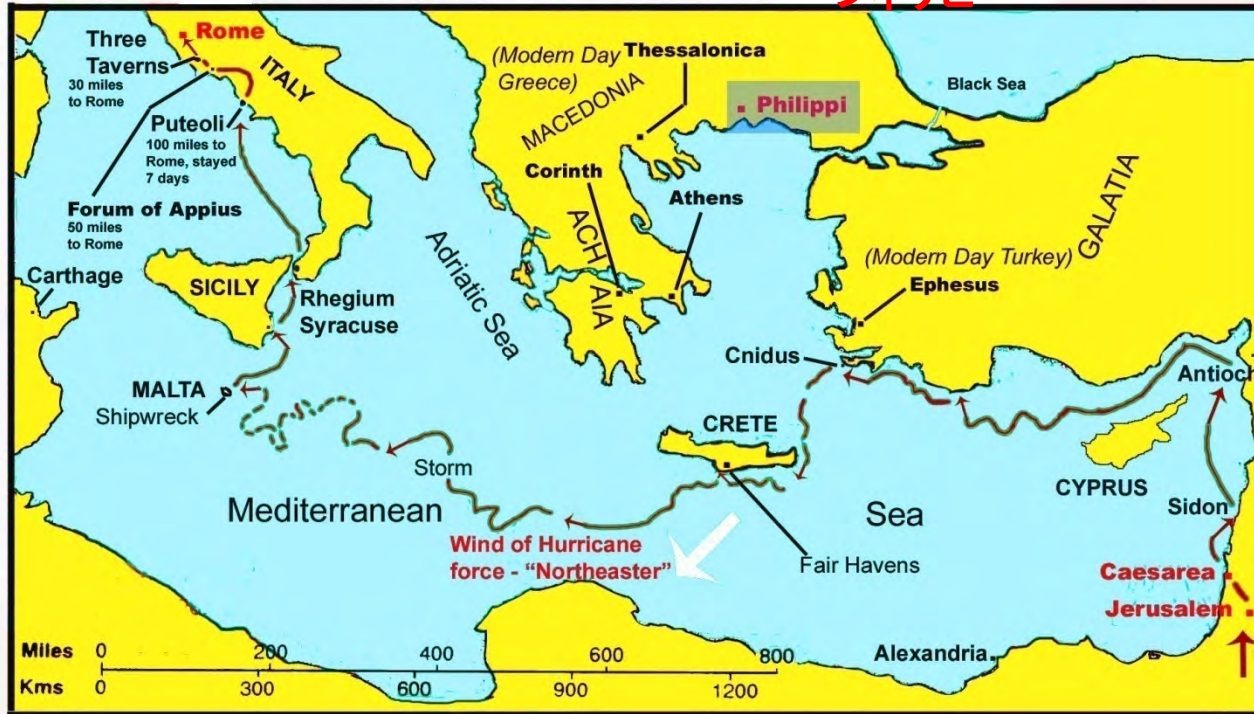
クラス②： エルサレムでの拘留

パウロの拘留された場所とローマへの旅

Places of Paul's custody and his voyage to Rome

ローマ

フィリッピ



カイサリア

エルサレム

Copyright 2003 by Central Christian Church.

Legend

- Cities where Paul was held in custody
- Main cities where the gospel spread

- 暗証聖句

使徒20:24

しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。

パウロのビジョン

使徒9:15-16

すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。

わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」

パウロはエルサレムに行くことに、非常に強い執着心がありました。しかし、多くの人から数回に渡り、エルサレムに行かないようにと反対されました。例えば：

1) 使徒21:4、ティルスの兄弟姉妹

彼らは“**霊**”に動かされ、エルサレムへ行かないようにと、パウロに繰り返して言った。

2) 使徒21:12、カイサリアの兄弟姉妹

わたしたちはこれを聞き、土地の人と一緒にあって、エルサレムへは上らないようにと、パウロにしきりに頼んだ。

反対した中の1人は、例の評判の良い7人の1人、福音宣教者フィリポであった。（使徒21:8）

パウロはエルサレムに到着した時、イエスの弟であるヤコブと長老達から忠告を受けた。ユダヤ教のしきたりに反してはいいないことをユダヤ人達に証明するために、神様に誓いを立てた4人の男性の清めの儀式の報酬を支払うように勧めた。

1. 怒り狂う激しい暴動

フィリピとは打って変わって、エルサレムでは激しい暴動が起きた。

使徒21: 27-29

七日の期間が終わろうとしていたとき、アジア州から来たユダヤ人たちが神殿の境内でパウロを見つけ、全群衆を扇動して彼を捕らえ、

使徒 21: 30

それで、都全体は大騒ぎになり、民衆は駆け寄って来て、パウロを捕らえ、境内から引きずり出した。そして、門はどれもすぐに閉ざされた。

使徒21: 33

千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者であるのか、また、何をしたのかと尋ねた。

暴動の原因はパウロにあると思われていた。

その結果として：

- i) パウロは直ぐに2本の鎖で縛られた。縛られた後に何をしたか尋問された。既に説明したように、ローマ市民に対するこのような扱いは違法であった。

- ii) パウロは兵営の中に連れて行かれそうになった。
(使徒 21: 37)

- iii) パウロは反乱を起こしたエジプト人ではないかと疑われた。それで早急に鎖で縛り上げられた。
(使徒 21: 38)

2. パウロの考え

人前で話すことが許可された時、パウロはこのように語った(使徒22:3)

「わたしは、キリキア州のタルソスで生まれたユダヤ人です。そして、この都で育ち、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しい教育を受け、今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました」

- そこに集まっていた群衆はユダヤ人であった。
- この時点でローマの市民権を有していることを明かせば、パウロが逃げようとして、真実を隠していると思われる可能性があると考えたのででしょう。
- この時点でローマ市民であることを公に話していれば、ユダヤ人の群衆はパウロの話に耳を傾けなかったでしょう。ユダヤ人はローマ帝国に憎しみを持っていたから。

- 群衆を味方にするために、パウロはこの時点ではローマ市民であることを明かさなかった。
- 群衆にはアラム語で語った。(使徒 22: 1-2) しかし、千人隊長にはギリシヤ語で語った。(使徒 22: 37)
 - 22:1 「兄弟であり父である皆さん、これから申し上げる弁明を聞いてください。」
 - 22:2 パウロがヘブライ語で話すのを聞いて、人々はますます静かになった
- 「兄弟」や「父」という表現を使ってユダヤ人に対して親しみを伝えようとした。パウロは彼らを心から愛しており、救いたかった。
- パウロはタルソで生まれて、エルサレムで育った。
- ユダヤ人を救うためにユダヤ人のようになるということを実践していた。(I コリント 9: 20),.

パウロは自分の民を心から愛していた

- ・あなたは自分の民をどれほど愛していますか。
- ・自分の故郷が伝道されることに対する情熱がどれほどありますか。
- ・自分の学歴や職歴のために外国に住むことなど考えていませんか。
- ・自分の理想の生活か、キリストに仕える生活か、どちらを優先に考えていますか。

世界を救うためのクリスチャンか
世界に認められる(この世的な)
クリスチャンか?

3. パウロはローマ市民権保持者であることを最後まで明かさなかった

エルサレムの群衆の信頼を勝ち取り、なるべく群衆に心を開いてもらうために、ローマ市民権について明かさなかった。これは作戦的に行なったことである。

群衆に話しても群衆は聞く耳を持たなかった。

使徒 22: 22

パウロの話をここまで聞いた人々は、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない。」

- 千人隊長はパウロが鞭で打たれるように命令した。(使徒 22: 24). このために使われた道具はハンドルに皮の縄がついたものであった。
- ローマ市民は有罪の判決が下った後か死刑を受ける直前の時などに鞭打たれることはあった。しかし、裁判が行われていない状態では鞭打ちすることは法律上禁止されていた。
- パウロが誤って告発されたり、鞭打ちされそうになっても、直ぐに自分のローマ市民としての権利を訴えなかったことに注目してください。

- 使徒22: 24

千人隊長はパウロを兵營に入れるように命じ・・・

- パウロは「自分はローマ市民だ」と叫ばなかった。その代わりに彼は千人隊長に対して質問した。

使徒22: 25.

「ローマ帝国の市民権を持つ者を、裁判にかけずに鞭で打ってもよいのですか。」

- この時点で、パウロは既に神殿の境内から離れていたユダヤ人の民衆とは接点がなかった。

使徒22: 26-29

これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところへ行って報告した。「どうなさいますか。あの男はローマ帝国の市民です。」千人隊長はパウロのところへ来て言った。「あなたはローマ帝国の市民なのか。わたしに言いなさい。」パウロは、「そうです」と言った。

千人隊長が、「わたしは、多額の金を出してこの市民権を得たのだ」と言うと、パウロは、「わたしは生まれながらローマ帝国の市民です」と言った。そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、直ちに手を引き、千人隊長もパウロがローマ帝国の市民であること、そして、彼を縛ってしまったことを知って恐ろしくなった。

パウロがローマ市民権保持者であることをこの時まで明かさなかった決定的な理由は、ユダヤ人に福音を伝えるためであった。ユダヤ人にキリストの福音を知ってほしかった。これは戦略的なことであった。

4. 鎖が外された上での拘留

パウロと千人隊長の間で会話があった。
千人隊長が多額の金を出して市民権を得たこと
に対し、パウロの返事は「わたしは生まれながら
ローマ帝国の市民です」でした。パウロは自分の
市民権の得た経緯のほうが千人隊長よりも上で
あると訴えたようにも見える。

パウロは最高法院の前で話すことを命じられた
(使徒22: 30)

翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。

- パウロを暗殺する陰謀が計画されていた
使徒23:16

しかし、この陰謀をパウロの姉妹の子が聞き込み、兵營の中に入って来て、パウロに知らせた。

- 拘留されていても、甥が自由に話に来られるというほどの自由があった。甥が千人隊長に、この陰謀について報告した。
- 千人隊長はパウロを守るために動いた
使徒23:23-24

千人隊長は百人隊長二人を呼び、「今夜九時カイサリアへ出発できるように、歩兵二百名、騎兵七十名、補助兵二百名を準備せよ」と言った。また、馬を用意し、パウロを乗せて、総督フェリクスのもとへ無事に護送するように命じ

初めは、千人隊長は怒り狂ったユダヤ人の群衆に惑わされ、パウロが犯罪者であると信じていた。その結果パウロを鎖で縛り、鞭打とうとまでした。

パウロと一緒にいる間、千人隊長の考えが変わり、拘留しながらでも自由を与え、パウロを守るために全力を尽くすようになった。

パウロがローマ市民権保持者であることを最後まで明かさなかったことから以下のことが分かる：

- i) 同胞であるユダヤ人を愛し、自分を守るよりも彼らを救いたかった。ユダヤ人の信頼を得るためにあえてアラム語で話し、自分のユダヤ人としての生い立ちを明かした。最後の最後に、ユダヤ人がいない場での会話の中でローマ市民であることを明かした。
- ii) 自分を守らず、福音宣教に非常に熱心であった。愛するユダヤ人を救うことに対して一度も諦めなかった。
- iii) パウロにも恐れがあった。そのため主は直接パウロに現れてこのようなことばを語った。使徒23:11
「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。」

- 主はパウロの証しに対して喜んでくださった
- この言葉は群衆に対して証ししたことについて語っていたでしょう。
- 私達にとって「主のために証しをする」とはどのような意味がありますか。

質問:

- 1) 理由なくあなたを告発する人がいたとしても、その人を愛し、救うために働きかけていますか。
- 2) もし誰かがあなたを殺そうとしていることが分かったら、反射的にどうしますか。その人を主に導こうとしますか？
- 3) あなたの才能や育った背景(家族、学歴、職歴、出身、友人)などを通して神の国を広げることを考えていますか。人の救いに役立つ上でどのような才能や持ち物や特権がありますか。

暗証聖句
使徒21: 13

そのとき、パウロは答えた。
「泣いたり、わたしの心をくじいたり、いったいこれは
どういうことですか。主イエスの名のためならば、エル
サレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたし
は覚悟しているのです。」